〈放送史への証言〉

テレビ放送開始　毎日映画を作ってた『NHKフィルムドラマの会』

～フィルムドラマの会・世話人，元NHK美術部長，小池晴二さんに聞く～

メディア研究部（メディア史）　松井泰弘

メディア研究部メディア史グループは，放送の発展に尽力されてきた方々から，「放送史への証言」として，ヒアリング（聞き書き）を行う業務を続けている。

今回のテーマは「テレビ草創期」とし，映画界（日活）から，昭和34年にテレビ美術担当の職員としてNHKに入局した小池晴二さんに，初期のテレビドラマについて話を伺った。

小池さんは，フィルム時代の『テレビ指定席』『NHK劇場』から，デザイナーとして数々のドラマ制作に携わってきた。

小池晴二さん

昭和８年生まれ。武蔵野美術大学卒業後，日活に入社，昭和34年にNHKに移り，美術デザイナーとしてドラマを中心に多くの作品に携わる。制作業務局美術部長を経て，平成２年退職。武蔵野美術大学理事長等をつとめたのち，現在，NPO法人日本映画映像文化振興センター副理事長，日本映画・テレビ美術監督協会顧問。

1．テレビ放送開始　映像の時代へ

NHKは，昭和28年2月1日からテレビ放送を開始しましたが，現在のビデオ撮影によるドラマに移行する過渡期に，フィルムだけで撮影していた時期がありました。『NHKフィルムドラマの会』は，その頃共にフィルムでドラマを作っていた仲間で結成された会です。当時は，まだドラマも生放送が主流でした。そんななか，映像の時代に向けて，フィルムならストックできるということもあり，フィルムでドラマを作り始めたのです。放送に出てしまえば，みなさん，フィルムも生放送も気にしないから，こんな時代があったことをあまり知らないんじゃないでしょうか。

フィルムドラマ制作が本格的に始まったのは，『テレビ指定席』（昭和36年）からですが，そのほかにも，50回の連続ドラマ『ゴーストップ物語』や，日仏合作の『真夜中の太陽』，新幹線を扱った『弾丸列車』などを，フィルムで撮っていました。それ以前にも，『しかもバスは走っていく』（昭和34年，出演：天草四郎，千葉信男，島崎雪子）という，週1回，9回連続のフィルムドラマがありました。

また，『灰色のシリーズ』という，サスペンスドラマのシリーズもありました。こちらはオールロケです。外の喫茶店を借りたり，民家を借りたりして，小道具スタッフが部屋を飾り変えてから，役者が中に入って，撮影が始まる。何度もロケ地に通って，ドラマの内容にふさわしい場所を探す。ロケハンがたいへんでした。

また，『灰色のシリーズ』までは，現場での同時録音ができなかったので，アフレコ（後から台詞を入れる方式）でした。これらのフィルムドラマの評判が良かったので，本格的シリーズを，ということで，『テレビ指定席』が生まれるのです。

2. 外部から人材が続々と

NHKの番組制作は職員スタッフというのが基本姿勢でしたが，当然のことながら，ラジオの経験者はいても映画を経験したスタッフは局内にいなかったわけです。そこで，初めてフィルムドラマを撮るとなった時に，映像の演出ができる人にということで，映画界，演劇界など，さまざまな分野から来てもらった。監督もいなければ，助監督もいないわけだから，外から来てもらって，演出陣を作っていったんです。職員も加えた，まさに混成部隊でした。

若杉光夫さん，野村企峰さん，斉村和彦さん，金子精吾さん，山田達雄さん，小野田嘉幹さん。『灰色のシリーズ』を作ったのは，この人たちです。

最初は，ほとんどが外部から来た監督でした。深町幸男さん，北島隆さん，都成潔さんは，助監督として外部から入ってきた人です。また，この頃，ドラマ作りについて，職員をアメリカやイギリスで勉強させたりもしています。こういう人たちが，後に人材として育ってきました。

私も，昭和34年に日活から移ってNHKの職員になりました。経験者募集という形で採用があったように思います。カメラマンも同様でした。NHKにそういう職種がなかったので，ドキュメンタリー映画に関わっていたカメラマンやニュース番組を撮っていた人，劇場用映画を撮っていた人などに来てもらった。そして撮影部を作って，カメラマンを育てていったんです。監督は，映画のフィルムサイズと，当時のブラウン管のサイズが違うため，絵づくりには随分苦労したと思いますよ。

NHKがテレビをスタートさせて，ドラマを作れるようになるには，外部の力が不可欠でした。

3. 生放送時代のドラマ

この当時は，フィルムドラマと同時に，生放送のドラマも盛んに作られていました。生放送ですから，セットはとにかく作ったら放送して，終わったら壊すというシステムでした。

たとえば，『事件記者』（昭和33～41年）。仮に火曜日の放送だとすると，前日の月曜日の夜にセットを全部組み終わったところで，俳優やスタッフが入ってきて，粗稽古をする。それから，翌日までに大道具スタッフがセットを完成させ，小道具スタッフが内部を飾り付けてから，もう一回，役者が入ってきて，通しのテストをする。そして，「はい，本番」の声で放送が始まる。終わると次の番組が待っているから，すぐに壊して次の番組のセットに建て替える。その繰り返しでした。

生放送ですから，撮影は当然台本の順番に進んでいきます。カメラは，A，B，C 3台，

多い時は4台入れていました。セットには，カメラが入り込むスペースと撮り口があって，各カメラにコードがついています。カメラは今よりずっと大きくて重いし，床には，そこらじゅうにいろんなコードが這っているから，からまないようにしないといけない。そのために，セットのプランニング（設計）スタッフと演出や撮影スタッフが，事前にスタジオの50分の1の平面図を見ながら，カメラや役者の動きを決めていきました。その際，平面図に，カメラに見立てた十円玉を置いて，それを指で動かしながら，このスペースがあれば通れる，ここは難しいと，動きを確認していったものです。役者がとちっても，生放送ですからもちろん撮り直しはできません。

そんななか制作された『どたんば』（昭和31年）は，テレビ初期の長時間の生放送ドラマです。NHKが内幸町にあった頃で，当時はラジオスタジオをテレビ用に改修したスタジオしかありませんでした。そのスタジオを2つ同時に使って放送して，第11回芸術祭賞を受賞しました（演出：永山弘，出演：三國連太郎，加東大介，殿山泰司，飯田蝶子など）。

『どたんば』は，炭坑の落盤事故で取り残された4人の坑夫を救出するというドラマで，2つのスタジオに地上と坑内のセットを組み，フィルムを一切使わず，90分間を全部生放送で通しました。このドラマの映像は，キネコ方式（生放送中のテレビのブラウン管を，直接フィルムカメラで撮影する）のフィルムで残っています。現在残っている生放送の映像のほとんどは，このキネコ方式によるものです。私の入局前ですが，『どたんば』は，草創期のテレビドラマの金字塔とも言える意欲作でした。

4. フィルムドラマ　制作本格化

さて一方，フィルムドラマでは，昭和36年から『テレビ指定席』（～41年）がスタートします。『灰色のシリーズ』の評判が良かったので，本格的にスタジオも使うフィルムドラマを作ろうということになりました。スタジオで撮るとなると，セットデザイナーも必要ですから，私や，大映から来た同僚の小林喬さんも，さらに忙しくなってきました。

当時，NHKにはテレビスタジオはありましたが，フィルムドラマ用のスタジオはありません。そこで目黒柿の木坂にある「教配」という映画のスタジオをレンタルして使いました。フィルムドラマというのは，スタッフ構成を含めて映画とまったく同じ制作システムでしたから，1本撮るのに，1週間なり2週間なり，長いものはひと月という撮影所のようなスケジュールを組んでいました。

その後，ドラマ制作は4班体制となって，小さかった「教配」スタジオから，撮影機材やスタジオの条件のよい，世田谷区砧にある「国際放映」（かつての新東宝）に移りました。『テレビ指定席』は，ここで撮っています。

初期は，斉村和彦さん，野村企峰さん，金子精吾さん，小野田嘉幹さん，山田達雄さん，などの外部監督が，多く演出しています。そして，昭和38年頃からは，吉田直哉さん，和田勉さん，都成潔さん，深町幸男さん，岡崎栄さん，北島隆さんら，NHKの職員が関わるようになりました。

その後，東京オリンピックに合わせてNHKは渋谷の放送センターに移転し，放送センターにもフィルム用のスタジオが作られました。101スタの床に土を入れて，何本か撮りました。そのうち，ビデオ制作のドラマの時代になって，フィルム用のスタジオはなくなってしまいましたが。

5. 多くの映像が消えた

「NHKフィルムドラマ作品一覧表」を見ると，制作が本格化した昭和36年の『テレビ指定席』から，あとに続く『NHK劇場』（昭和41年～44年）とあわせて，9年間で218本ものフィルムドラマを作っています。

1週間に1本放送するわけだから，4班体制くらいで進んでいかないと間に合いません。この頃が忙しさのピークでした。深夜の撮影もしょっちゅうでした。

ところが，その頃制作したドラマのフィルムがほとんど残っていません。どこを探しても見つからないのです。

私たちにとっては，ミステリーと言うしかありません。フィルムは，全部，保管していたはずです。素材ネガフィルムも放送用のポジフィルムも確かにとってあったはずなのですが。

ビデオの時代になったらフィルムは要らないよ，ということだったのか，テレビは一過性，同時性が大事，という感覚だったのか，理由はわかりません。その後，ビデオが導入され，映像をストックできるようになっても，ビデオテープがとても高価で，収録した番組を上書き録画して消しながら撮っていましたから，初期の映像は失われたものが多いのです。当時，民放も同じです。多くの作品を失いました。

それに比べると，フィルムは，ネガがしっかりしていれば，もう一度焼き直せば上映できる。かえすがえすも残念ですね。

吉田直哉さんが演出した作品に『恐山宿坊』（昭和39年　脚本：新藤兼人，美術：小池晴二　撮影：岩井禧周，出演：嵯峨善兵，毛利菊枝など。芸術祭奨励賞）があります。私は，吉田さんと津軽の恐山に行ってロケをしました。戻ってくると，国際放映スタジオの中に宿坊のセットを組んで撮りました。

このドラマは，テレビマンユニオンの今野勉さんなど，民放の制作者からも，「触発された」という声が数多く寄せられていますが，やはりフィルムはもう失われています。吉田さんもずっと探しておられましたが，結局見つからないと，寂しそうに語っておいででした。失われてしまった当時の作品はきっとどこかに残っていて，探せばいくつか見つかるはずだとは思うのですが。

6. フィルムドラマの会　幕を閉じる

フィルムドラマの会が，最初にいつ招集されたかはさだかな記憶がないのですが，全部で6回開催しました。NHKの職員だけでなく，撮影所など外部から来てNHKを手伝ってくれた美術スタッフや，照明のスタッフなどが集まった同窓会のようなものです。何十年も前に，フィルムドラマを作っていた仲間が，こうして集まるようになったのには理由があるように思います。

たとえば，映画の撮影所の場合ですと，監督室があり，助監督室，撮影部，照明部，デザイナー，大道具，小道具の部屋と職種ごとに分かれています。

映画を撮っている時には，スタッフが混じり合ってやっていますが，仕事が終わると，自分たちの部屋に戻ってしまいます。

ところが，当時のNHKのスタッフは，国際放映のスタジオを借りていて，スタッフルームを，職種ごとに分けられるほど十分なスペースはありませんでした。

だから，監督から，デザイナー，外部の小

最後の懇親会の集合写真

小池晴二さん提供

道具や衣装スタッフ，スクリプター（映画の撮影現場で，そのシーンの演技や動きなどを記録・管理するパート）まで，全部同じ部屋の中で生活していました。もしかしたら映画のスタッフより，もっと濃密な付き合いをしていたわけです。

そんなわけで，もともとは，もうフィルムで番組を作ることもないだろう，ではどこかで集まろう，というくらいの親睦会だったんですが，時には100人以上集まったこともありました。かつては役者さんたちも顔を見せてくれていましたし，外部監督だった斉村和彦さんや小野田嘉幹さんも来てくれます。

それが残念なことに，みんな年を取ったし，この辺でピリオドを打とうということで，平成21年9月25日の親睦会を最終回に解散となりました。最終回にも職種を超えて多くの仲間が集まりました。これが最後と聞いて，体調が悪いのに出席してくれたスタッフもいました。

こうして『フィルムドラマの会』は幕を閉じましたが，あの頃，さまざまな職種の人たちが一緒にものを作っていた，混合体の中で暮らしていた，というつながりが消えることはないですね。これはテレビドラマの歴史の中で，とても稀有なことだと思っています。

（まつい やすひろ）

「フィルムドラマの会」世話人
都成　潔（演出）川端正道（制作）赤城久雄（撮影）
小池晴二（美術）土屋源次（助監督）

資料：「テレビ指定席」昭和 36 年度放送作品

題　名	演　出	主な出演者	放送日（昭和）
春の雪	斉村　和彦	山本　礼三郎・細川　ちか子	36-4-9
社長室	野村　企峰	仲谷　　昇・岸田　今日子	36-4-23
北斗の子	金子　精吾	磯村　みどり・加藤　道子	36-5-7
あしたの風	藤原　杉雄	坪内　美詠子・山崎　左度子	36-5-21
青空の歌	斉村　和彦	清川　新吾・日野　麻子	36-6-4
プリムラの森	畑中　庸生	小林　千登勢・木暮　実千代	36-6-18
永遠のためいき	斉村　和彦	南原　宏治・馬淵　晴子	36-7-2
東京の川風	金子　精吾	織田　政雄・沢村　貞子	36-7-23
あしあと	斉村　和彦	望月　優子・河野　秋武	36-8-6
長い髪の女	小野田　嘉幹	馬淵　晴子・浦辺　粂子	36-8-20
しあわせ	斉村　和彦	磯村　みどり・坂口　美奈子	36-9-3
生活の河	小野田　嘉幹	松村　達雄・辻　　伊万里	36-9-17
銀杏	泰山　英世	村瀬　幸子・川合　伸旺	36-10-1
たつた二人の工場から	金子　精吾	久米　　明・森　　光子	36-10-14
道	斉村　和彦	信　　欣三・小林　千登勢	36-11-11
頬打ち	藤原　杉雄	川口　知子・寺島　達夫	36-11-25
海を渡る人々	金子　精吾	菅原　謙二・高山　真樹	36-12-9
賭ける	斉村　和彦	河野　秋武・鳳　　八千代	36-12-23

昭和 37 年度

題　名	演　出	主な出演者	放送日
大空にはばたけ	小野田　嘉幹	黛　　ひかる・高津　住男	37-1-6
眼	金子　精吾	早川　　保・稲垣　美穂子	37-1-27
残りの幸福	斉村　和彦	英　　百合子・松村　達雄	37-2-10
冬の月	金子　精吾	龍崎　一郎・小夜　福子	37-2-24
遠い道	小野田　嘉幹	小林　千登勢・沢村　貞子	37-3-10
父と子	金子　精吾	宇野　重吉・沼田　曜一	37-3-24
巣立ち	斉村　和彦	沢村　貞子・山本　　学	37-4-7
聞いてくれみんな	斉村　和彦	小坂　一也・梅野　泰靖	37-4-14
瓜	山田　達雄	大木　　実・深見　泰三	37-4-21
輪　禍	小野田　嘉幹	長谷川　明男・荒木　道子	37-4-28
祝　福	山田　達雄	吉行　和子・菅原　謙二	37-5-5
とも子そんした	金子　精吾	寺田　　誠・浅野　寿々子	37-5-12
二十才で春で	金子　精吾	樋口　年子・谷　　育子	37-6-9
若ものたち	小野田　嘉幹	長谷川　明男・日色　ともゑ	37-6-16
ある遍歴	斉村　和彦	小山　源喜・西村　　晃	37-6-23
うちのにいちゃん	斉村　和彦	久我　美子・南原　宏治	37-7-7
ここにも空が	山田　達雄	大坂　志郎・加藤　治子	37-8-18
男衆さん	山田　達雄	多々良　純・伊吹　友木子	37-9-8
ラブレター	山田　達雄	島　かおり・ジェリー　藤尾	37-10-6
歪みの結晶	小野田　嘉幹	長谷川　明男・松村　達雄	37-10-13
マッチ箱の家	金子　精吾	下元　　勉・南風　洋子	37-10-20
けいせんや	斉村　和彦	山形　　勲・高森　和子	37-10-27
あとつぎ	山田　達雄	山本　礼三郎・山本　豊三	37-11-3
汚れた小さな手	小野田　嘉幹	長谷川　明男・島　　かおり	37-11-10
失　踪	金子　精吾	中井　啓輔・織田　政雄	37-11-17
芽ばえ	斉村　和彦	小林　千登勢・石浜　　朗	37-11-24
町が呼んでる	山田　達雄	河内　桃子・小林　トシ子	37-12-1
計算ちがい	小野田　嘉幹	三井　弘次・夏川　静江	37-12-8
遠い島から	金子　精吾	桑山　正一・北村　和夫	37-12-15
背後の人（影の章）	斉村　和彦	岡田　英次・八千草　薫	37-12-22
〃　　（光の章）	斉村　和彦	岡田　英次・八千草　薫	37-12-29

昭和 38 年度

題　名	演　出	主な出演者	放送日
すてきなパートナー	小野田　嘉幹	小林　千登勢・磯村　みどり	38-1-5
のれんと息子	金子　精吾	中山　克己・富田　仲次郎	38-1-12
海の畑	山田　達雄	嵐　寛寿郎・長谷川　明男	38-1-19
砂　丘	斉村　和彦	米倉　斉加年・岩本　多代	38-1-26
銀と青銅の差	小野田　嘉幹	南原　宏治・青山　京子	38-2-2
僕は歌わない	泰山　英世	杉浦　直樹・谷口　　香	38-2-9
ひとりぼつちじゃない	近藤　　晋	小山田　宗徳・渡辺　篤史	38-2-16
小夜子とその母	山田　達雄	村瀬　幸子・小林　哲子	38-2-23
ある結婚	金子　精吾	北城　由紀子・牧野　義介	38-3-2
花のような薬と薬のような花	斉村　和彦	木暮　実千代・永田　　靖	38-3-9
親　友	小野田　嘉幹	多々良　純・久松　保夫	38-3-16
むかい風	金子　精吾	広田　進司・榊　　ひろみ	38-3-30
波　紋	斉村　和彦	山本　　学・小林　千登勢	38-4-6
失なわれたもの	小野田　嘉幹	南原　宏治・久我　美子	38-4-13
黒い炎	斉村　和彦	三井　弘次・上青木　浩一	38-4-28
六人のおくりもの	小野田　嘉幹	小夜　福子・笹森　和子	38-5-4
小さな生活	金子　精吾	早川　　保・真山　知子	38-6-1
被害者	泰山　英世	信　　欣三・吉行　和子	38-6-15
下　町	斉村　和彦	磯村　みどり・大塚　国夫	38-7-6
若い瞳	金子　精吾	樋口　年子・大塚　国夫	38-7-13
第三の裁き	小野田　嘉幹	小林　千登勢・花沢　徳衛	38-8-10
ボプラの歌	金子　精吾	三上　真一郎・小坂　一也	38-8-31
敗北のとき	斉村　和彦	佐藤　　慶・山本　礼三郎	38-9-14
獣に生きる	金子　精吾	川合　伸旺・中川　弘子	38-9-21
テール・ライト	小野田　嘉幹	小山田　宗徳・小田切　みき	38-10-26
顔	金子　精吾	清川　虹子・多々良　　純	38-11-2
孤独の空	斉村　和彦	河野　秋武・清水　まゆみ	38-11-9
遠い日の歌	中山　三雄	東山　千栄子・須賀　不二夫	38-11-16
木　偶	山田　達雄	田村　高広・高森　和子	38-11-23
心のある場所	小野田　嘉幹	青山　京子・宗近　晴見	38-11-30
魚住少尉命中	吉田　直哉	中尾　　彬・結城　美栄子	38-12-7
いつか嫁ぐ日	斉村　和彦	山形　　勲・沢村　貞子	38-12-14
東京の昼と夜	小野田　嘉幹	高津　住男・黛　　ひかる	38-12-21
ドブネズミ色の街	深町　幸男	大坂　志郎・亀谷　雅敬	38-12-28

昭和 39 年度

題　名	演　出	主な出演者	放送日
むかしの歌	山田　達雄	高森　和子・北林　早苗	39-1-4
青春を谷間に	金子　精吾	真山　知子・有沢　正子	39-1-11
秋生の里	梅木　重信	山本　礼三郎・加藤　澄江	39-1-18
父の恋人	畑中　庸生	信　欣三・小林　千登勢	39-1-25
黒枠当番	斉村　和彦	柳生　博・稲垣　美穂子	39-2-1
寄席行燈	山田　達雄	田村　高広・石浜　朗	39-2-8
蛙	近藤　晋	山本　圭・島　かおり	39-2-15
ばらの少女	小野田　嘉幹	北沢　彪・磯村　みどり	39-2-22
強情つ張り	北島　隆	下条　正己・松本　典子	39-2-29
この狭き門を	斉村　和彦	山崎　猛・菅井　きん	39-3-7
鍵つ子	金子　精吾	中山　昭二・中村　雅子	39-3-14
松　平	小野田　嘉幹	千秋　実・千之　赫子	39-3-28
笹の屋敷	金子　精吾	佐野　周二・小林　千登勢	39-4-4
夢をつくる	金子　精吾	桑山　正一・小瀬　朗	39-4-11
若者よ泣くな	小野田　嘉幹	吉野　憲司・有田　紀子	39-4-18
おとこ同志	深町　幸男	金子　信雄・三宅　邦子	39-5-23
ずばり東京	和田　勉	北村　英三・沢村　貞子	39-5-30
アイ・ラブ・ユー	小野田　嘉幹	早川　雪州・モニカ・イブライト	39-6-27
一つ屋根の青春	斉村　和彦	沢村　貞子・松村　達雄	39-8-15
みみず買いまつせ	小野田　嘉幹	村上　冬樹・市川　和子	39-9-5
出発進行	斉村　和彦	佐竹　明夫・谷口　香	39-9-19
クレバス	小野田　嘉幹	高木　二郎・鳳　八千代	39-10-3
ずいどう	斉村　和彦	吉野　憲司・藤山　龍一	39-10-14
きものの女	山田　達雄	月丘　夢路・佐竹　明夫	39-10-31
恐山宿坊	吉田　直哉	瑳我　善兵・毛利　菊枝	39-11-7
ふたたび五月が	小林　利雄	額村　多美子・左　幸子	39-11-14
質やいそつぷ	北島　隆	信　欣三・市川　寿美礼	39-11-28
紅匂う（前編）	山田　達雄	柳川　慶子・川合　伸旺	39-12-5
紅匂う（後編）	山田　達雄	柳川　慶子・川合　伸旺	39-12-12
子供の季節	金子　精吾	浜村　純・夏　圭子	39-12-19

昭和 40 年度

題　名	演　出	主な出演者	放送日
王女の買い物（前編）	井上　博	木暮　実千代・柏木　優子	40-1-9
王女の買い物（後編）	井上　博	木暮　実千代・柏木　優子	40-1-16
焼子のうた	金子　精吾	津川　雅彦・川口　知子	40-1-23
城　砦（前編）	畑中　庸生	小林　千登勢・菅原　謙二	40-2-6
城　砦（後編）	畑中　庸生	小林　千登勢・菅原　謙二	40-2-13
記念の樹	都成　潔	樫山　文枝・塚本　信夫	40-2-20
三人の求婚者（前編）	小野田　嘉幹	稲垣　美穂子・美川　陽一郎	40-3-6
三人の求婚者（後編）	小野田　嘉幹	稲垣　美穂子・美川　陽一郎	40-3-13
木　（BK 制作）	荒木　順	下条　正己	40-4-3
ある判決以前	吉田　直哉	柳生　博・谷　育子	40-4-10
踏切の目	北島　隆	花沢　徳衛・ミヤコ　蝶々	40-5-8
霧	小野田　嘉幹	早川　保・北林　早苗	40-6-26
婚約未定旅行	金子　精吾	露口　茂・楠　侑子	40-7-3
雲流れて二十年	斉村　和彦	南原　宏治・河野　秋武	40-8-7
流人島	泰山　英世	下元　勉・桜　むつ子	40-8-21
僕たちはもう大人だ	斉村　和彦	亀谷　雅敬・ジュディ・オング	40-9-11
男性諸君！	深町　幸男	東山　千栄子・大阪　志郎	40-10-2
ヤマツ子六代め	岡崎　栄	薬山　謙二・加藤　忠	40-10-16
露地に雨降る	山田　達雄	田村　高広・花柳　小菊	40-10-23
ここにマキがいた	小林　万顕	上木　三津子・小栗　一也	40-11-6
廃屋の島	中山　三雄	国　創典・森沢　孝	40-11-13
はらから	和田　勉	高桐　真・露口　茂	40-11-20
駅	深町　幸男	宮口　精二・佐藤　慶	40-12-4
菊の露	山田　達雄	沼田　曜一・雪代　敬子	40-12-11
祈　禱	泰山　英世	村瀬　幸子・稲垣　美穂子	40-12-25

昭和 41 年度

題　名	演　出	主な出演者	放送日
夜の出帆	都成　潔	岡田　英次・島　かおり	41-1-8
20 才	深町　幸男	田村　正和・中尾　ミエ	41-1-15
シヤルル四世	渡辺　忠政	加藤　嘉・堤　真佐子	41-1-22
わが一高時代の犯罪	金子　精吾	津川　雅彦・川合　伸旺	41-1-29
春　寒	山田　達雄	亀井　光代・佐野　周二	41-2-5
五稜の星	館野　昌夫	安井　昌二・渡辺　文雄	41-2-12
豚を飼う家	小野田　嘉幹	千秋　実・富田　恵子	41-2-19
母の婚礼	山田　達雄	高森　和子・三島　耕	41-3-5
親をさがした	斉村　和彦	柳生　博・望月　優子	41-3-12
沖山アキの感情	北島　隆	南田　洋子・北村　和夫	41-3-26
四枚のたたみ	和田　勉	下元　勉・中村　加津夫	41-4-2
鴨	金子　精吾	大木　実・高森　和子	41-4-9
愛しているなら	成島　庸夫	江原　真二郎・久我　美子	41-4-23
忘れ霜	金子　精吾	露口　茂・弓　恵子	41-6-4
幼い二人	都成　潔	岡田　由紀子＋中山　克己	41-8-20
長い道	小林　万顕	岡田　英次・木村　俊恵	41-9-17
赤勝て　白勝て	北島　隆	工藤　堅太郎・佐々木　愛	41-9-24
希　望	和田　勉	原　知佐子・桜　むつ子	41-10-1
妹はまだ……？	深町　幸男	吉村　実子・二木　てるみ	41-10-13
石になるまで	小林　万顕	東野　孝彦・荒木　一郎	41-11-3
大市民	和田　勉	植木　等・左　幸子	41-12-4

昭和 44 年 3 月　芸能局ドラマ班フィルムドラマ作成「NHK フィルムドラマ作品一覧」より